

大会企画 | 2022年11月19日

📅 2022年11月19日(土) 17:40 ~ 19:10 🏢 B会場 (大ホールC)

大会企画5

医療情報技師育成事業20周年記念ワークショップ2「医療情報技師会のあり方を考える」 - これまでの10年を振り返ってこれからの10年を展望する -

オーガナイザー：下川 忠弘（全国医療情報技師会連絡協議）

座長：下川 忠弘（全国医療情報技師会連絡協議）、相坂 琢磨（東京医科大学）

[3-B-4-02] 関東医療情報技師会の活動報告

*岡田 謙二郎^{1,2} (1. 関東医療情報技師会、2. 武蔵野赤十字病院)

キーワード：Healthcare Information Technologist、Kanto Association of Medical Information Engineers、activity report

関東医療情報技師会は2010年12月、すでに活動を開始していた関西医療情報技師会を追いかける形で発足した。会の運営においては、会長や副会長といった役員を置かず、勉強会を主催する当番世話人をその都度決め、当番世話人が関東医療情報技師会の代表という形をとっている。現在は世話人23名、事務局5名、会員数は763名である。

関東の医療情報技師が自発的に集い、医療情報技師が今後の医療情報に貢献していくことを目指し、事例等の情報交換を行いノウハウの共有を図る。また、特定のテーマを決めて議論を行い、継続的に医療情報技師としてのスキル向上を図るとともに、医療情報技師の認知度を高めるための活動を行っている。

発足後、12年間で計31回の勉強会を開催した。それ以外にも、数回のシリーズに分けて行う「ミニ勉強会」として、統計基礎勉強会（計5回）、ネットワーク基礎（計3回）、上級医療情報技師試験受験予定者向けの「上級医療情報技師試験寺子屋」（計10回）を開催した。また、埼玉・茨城・群馬といった東京以外で開催するミニ勉強会（計5回）、北海道医療情報技師会設立準備会への講師派遣などの活動も行った。

当初11名の世話人から始まった当技師会だが、現在の世話人の人数は23名となった。若い世代もメンバーに加わり、しっかりと新陳代謝も進んでいる。勉強会に求められるテーマもこの10数年で変化していく中で、今後も医療情報技師に必要とされる技師会を目指し、医療情報技師に必要な知識の共有とコミュニティを形成すべく、会員のみならずとともに歩んでいきたい。

JCMI 2022

医療情報技師育成事業 20 周年記念ワークショップ 2

テーマ 医療情報技師会のあり方を考える

～これまでの 10 年を振り返ってこれからの 10 年を展望する～

演 題 関東医療情報技師会の活動報告

発表者 関東医療情報技師会 岡田謙二郎

関東医療情報技師会は 2010 年 12 月、すでに活動を開始していた関西医療情報技師会を追いかける形で発足した。会の運営においては、会長や副会長といった役員を置かず、勉強会を主催する当番世話人をその都度決め、当番世話人が関東医療情報技師会の代表という形をとっている。現在は世話人 23 名、事務局 5 名、会員数は 763 名である。

関東の医療情報技師が自発的に集い、医療情報技師が今後の医療情報に貢献していくことを目指し、事例等の情報交換を行いノウハウの共有を図る。また、特定のテーマを決めて議論を行い、継続的に医療情報技師としてのスキル向上を図るとともに、医療情報技師の認知度を高めるための活動を行っている。

発足後、12 年間で計 31 回の勉強会を開催した。それ以外にも、数回のシリーズに分けて行う「ミニ勉強会」として、統計基礎勉強会（計 5 回）、ネットワーク基礎（計 3 回）、上級医療情報技師試験受検予定者向けの「上級医療情報技師試験寺子屋」（計 10 回）を開催した。また、埼玉・茨城・群馬といった東京以外で開催するミニ勉強会（計 5 回）、北海道医療情報技師会設立準備会への講師派遣などの活動も行った。

当初 11 名の世話人から始まった当技師会だが、現在の世話人の人数は 23 名となった。若い世代もメンバーに加わり、しっかりと新陳代謝も進んでいる。勉強会に求められるテーマもこの 10 数年で変化していく中で、今後も医療情報技師に必要とされる技師会を目指し、医療情報技師に必要な知識の共有とコミュニティを形成すべく、会員のみならずとともに歩んでいきたい。

以上